

大震災・復興ニュース(第29報)

平成23年11月4日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況(国及び県全体の動き)

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

宮城県内で採取した水産物について、下記のとおり放射性物質の測定結果をお知らせします。

- 1 測定年月日 平成23年10月26日～11月1日
- 2 測定分析機関 (財)日本分析センター
- 3 測定結果 放射性ヨウ素はすべて不検出であり、放射性セシウムも国が定めた暫定規制値を下回り、安全性に問題がないことが確認された。

水産物(漁獲日 平成23年10月22日～10月31日)

(単位:ベクレル/kg)

種別	漁獲場所	放射性セシウム	種別	漁獲場所	放射性セシウム
アカガレイ	宮城県沖	3.6	ブリ	三陸南部沖	3.6
エゾイソアイナメ(ドンコ)	宮城県沖	7.0	カタクチイワシ	三陸南部沖	4.1
クロソイ	宮城県沖	7.7	カツオ	三陸南部沖	10.6
ウミタナゴ	宮城県沖	不検出	サンマ	北海道・青森県沖太平洋	4.9
メバル	宮城県沖	6.7	サンマ	北海道・青森県沖太平洋	0.5
アイナメ	宮城県沖	不検出	ピンナガ	日本太平洋沖合北部	3.4
コモンカスベ	宮城県沖	3.8	キハダマグロ	日本太平洋沖合北部	6.9
ミズダコ	宮城県沖	不検出	マコガレイ	仙台湾	6
ヒラメ	宮城県沖	8.7	イワナ	大和町	不検出
マガレイ	宮城県沖	12.8			

放射性物質の値は漁獲日における値を示す。

食品衛生法の規定に基づく食品中の暫定規制値

放射性ヨウ素 2,000ベクレル/kg

放射性セシウム 500ベクレル/kg

<水産漁港部からのお知らせ>

「がんばろう塩釜 水産復興フェア」開催

塩釜の水産加工品の販売促進を図るため、イオンリテール(株)の協力により、11月3日(木)から県内のイオン8店舗において塩釜市内の水産加工業10数社による水産加工品の販売・PRを実施している。



1 1月3日にはイオン利府店においてオープニングセレモニーとして塩竈市長，仙台地方振興事務所長の挨拶や粗品配布が行われ，当部職員もむすび丸の着ぐるみを着てイベントを盛り上げた。

店内塩釜の水産加工品を求める大勢の買い物客で賑わった。

このイベントは6日（日）まで行われていますので，最寄りの方はぜひお出でください。

2 管内の復興に向けた動き

<トピックス>

河川へのシロサケ遡上が本格化

当管内でのシロサケの河川遡上が10月中旬より本格化している。

南部地区の10月中旬までの河川親魚捕獲数は4,356尾（前年比152%），採卵数674千粒（前年比750%）となっており，昨年同期の数量を上回っている。

ちなみに南部地区の沿岸漁獲状況は10月中旬までの累計数量で12t（前年比33%），累計金額で364万円（前年比35%）に留まっている。

管内でカキ出荷始まる

松島において，10月30日よりカキの出荷が始まった。

県漁協松島支所の磯崎カキ処理場では，42件の生産者が午前中いっぱいカキ剥きを行い，1日の出荷量は1t前後となっている。県内全体での生産量が少ないため相対取引となっており，単価は10kg当たり1万6千円となっている。

災害復旧応援職員の紹介

兵庫県の但馬水産事務所から来ました加藤と申します。

但馬水産事務所は兵庫県北部の日本海に面した県営漁港を管理しており，各漁港ではズワイガニやホタルイカ等が水揚げされるなど，日本海の幸を供給しています。

漁港関係の業務は今年の4月からと経験が浅く，これまでは主に道路事業，企画等を行って参りました。

塩釜漁港は魚介類の水揚げはもとより，風光明媚な松島に近接するなど多様な機能を持っており，施設の規模も大きく素晴らしい港だと痛感しました。

休日には時間を見つけて宮城の名産や名所を体験し，兵庫県に帰りましても宮城の素晴らしさを多くの方に伝えたいと思います。一ヶ月という短い期間ですが，よろしく願います。



内水試による採卵指導（広瀬名取川漁協）



磯崎カキ処理場でのカキ剥き状況



加藤隆依さん